

2023年7月16日

「新しい生き方」

ガラテヤの信徒への手紙 6:14-18

竹島 敏牧師

天地創造の時、被造物同士の関係も「極めて良かった。」と記されています。しかし間もなく人は神の御心からそれて、神の忠告、戒め、裁きのたびに人は神の御心に立ち戻り、またすぐに脱落する。それが人と神の歴史でした。神に従えない人と世界を、それでも神は人の誕生を祝福し続け、導きのみ手を差し伸べ続けてきました。

クリスチャンにとって洗礼は、新しい人生の始まりですが、大切なのは、受洗の事実ではなく、「新しく創造される」ことです。神の御心に逆らうこの世界にあっても、ゆがめられずに、十字架の導きのみに従ってゆくことです。自分はいったいどれほどの者なのか、十字架の他に誇るものが決してあってはならない、このことを認め、受け入れて、神の憐れみと平和があります。キリストの十字架のゆえに、その導きに従ってゆく時に、「世はわたしに対してはりつけにされて」自分のありようをゆがめ、縛る律法主義から解放されました。だからそれと同時に、「わたしは世に対してはりつけにされて」この世的な享楽、肉の業を遠ざけなければなりません。

一人の人の生涯を通して、神はその人を神の御心にふさわしく創造し続けるのだと考えるなら、この私たちも、神の創造の業の途上におかれている者たちなのだと言えましょう。新しく創造されてゆくという主の導きを妨げることなく委ね、互いに心配りし合い、神によって造られていた本当の自分らしさを取り戻す旅を模索し続けて歩むのです。私たちが負っている傷を主がすでに負ってくださっている、そのような主の愛に包まれて癒されて、そして時には、人のために傷つくことも恐れずに、新しい一歩を踏み出してゆくことができますように。